

平成30年度3学期始業式・校長式辞

皆さん、新年、明けましておめでとうございます。皆さんが元気に登校し、今こうして始業式に臨んでいる姿を見て、大変うれしく思います。今年もよろしく願います。

今日から「1年間のまとめとなる3学期のスタート」となります。3年生はもちろん「高校生活の締めくくりの時期」です。進路が内定している人も、これからチャレンジする人も、4月からの新たな生活に向けて、残り少ない高校生活を、1日1日大切にして過ごしてもらいたいと思います。2年生は、3年生に代わって本格的な学校の牽引役となります。また、自分自身の進路実現のために、自分の目指すものは何か、そのために今何をすべきかを考える時期です。よく言われますが、この3学期を3年生の0学期に位置付けて、最高学年の意識を持って、生活してほしいと思います。そして、1年生は、入学してから9か月が経ちました。あと3か月すれば、進級し、皆さんの後輩が入学してきます。ぜひ、これまでの生活をもう一度振り返り、学習や部活動などに励んでほしいと思います。

さて、2学期の終業式では、平成の時代が間もなく終わることや皇太子さまが本校を訪問されたこともあり、皇室の話をし少ししましたが、その数日後の12月23日には、天皇陛下として最後の誕生日の会見がありました。

平成の時代の象徴天皇として間もなく務めあげようとしているお気持ち、皇后陛下をはじめ天皇家の家族への思い、そして、国民に伝えたいメッセージなどがぎっしり詰まったもので、胸が熱くなるとても感動する内容でした。その会見から、私が印象に残っていることについて2つ皆さんに話をしたいと思います。

一つ目は、「平成が、戦争のない時代として終わろうとしていることに、心から安堵している」と述べられたことです。

昭和の時代には第2次世界大戦があつて、多くの若者が出兵して、国内外の戦地で尊い命が失われました。そして、広島・長崎に原子爆弾が投下されて、終戦となったわけです。今の社会の繁栄や平和な社会があるのは、多くの犠牲の上であり、戦後の勤勉で真面目な国民のたゆみない努力によってあることを、決して忘れてはならないと、平和の重要性を、次の世代に、またその次の世代にも正しく伝え続けてほしいという願いが強く伝わってきた内容でした。

二つ目は、昨年も多くの災害がありました。平成の30年間は、東日本大震災をはじめ甚大な災害が発生したこともあり、被災地に思いを馳せ、とても心を痛めた」と述べられたことです。また、こうも述べられました。(私は次のことがとても大事だと思います。)

それでも(災害などが起こっても)、「若者のボランティア活動をはじめ、様々な助

け合いの気持ちが育まれたこと、防災に対する意識が高まったこと、災害が発生した時でも、規律正しく行動する人々の姿があることには、心をうたれ、勇気づけられた」とも述べられたのです。

外国の中には、災害などが起こった時などには、物品の略奪や暴動、ケンカになってしまう国がありますが、日本では普段以上に節度を保ち、礼節と助け合いの精神があふれていて、奪い合いなど決して起こらず、それどころか、わずかに届いた“おにぎり”をみんなで分け合って食べる様子がありました。日本人のそんなメンタリティーが、どんな困難な状況になっても、「みんなで絶対復興するぞ」と立ち向かっていく大きな底力になってきたのだと私は思います。

天皇陛下は、我々に改めて平和と日本人の心の大切さを残してくれました。しかし、近頃のニュースを見ますと少々心配なこともあります。アメリカと中国では貿易摩擦や争いがありますし、隣国では北朝鮮のミサイル発射の問題、最も近い友好国である韓国でも様々な問題が取り上げられています。また、昨年ハロウィンでは、心ない若者が酒に酔って車を引っくり返す行動など渋谷での騒動がありました。

次の時代を生きる我々は、どんなことがあってもお互いの国を認め合い、戦争のない平和な社会を守り続けなければならないこと。そして、節度と礼節、助け合いの精神（日本人のメンタリティー）を忘れてはならないと思います。

もちろん、皆さんが日頃から行っているボランティア活動や地域貢献活動には私は常々頼もしく思いますし、また、日常生活の中でも昨年はお婆ちゃんに親切な言葉を差し伸べて助けてくれた嬉しいニュースもありました。ぜひ皆さん方には、在学中に限らず卒業してからも、いつでも、どこに行っても、誰に対しても、その気持ちを忘れないでほしいと思います。

おわりになりますが、今年1年が、皆さん一人ひとりにとって、そして上山明新館高校にとって、よい1年であることをお祈りして、式辞といたします。

平成31年1月8日

山形県立上山明新館高等学校 校長 阿部 孝